



藻琴山から屈斜路湖と雄阿寒岳

# 2024. 1 No. 94

- ・新年のご挨拶（北海道森林管理局長 吉村 洋）
- ・民有林行政への貢献に向けて（民有林連携・支援推進プロジェクトチーム）
- ・「もりどじこしらえ盛土地拵」による下刈の省略に向けて（十勝西部森林管理署 東大雪支署）
- ・こんにちは森林官です！ 黒松内森林事務所（後志森林管理署）
- ・センター通信（釧路湿原森林ふれあい推進センター）



# 新年のご挨拶



北海道森林管理局長 吉村 洋

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

まず、年明け早々に発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、今なお過酷な避難生活を余儀なくされている被災者の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

現在、林野庁・関係森林管理局では、山地の被害状況調査、被災自治体への職員の派遣、被災された林業・木材産業事業者の皆様の相談窓口の設置等の対応を行っているところです。

さて、旧年中は北海道国有林の管理経営に対し、特段のご理解とご協力を賜り誠に有り難うございました。

2023年は、長期化するウクライナ紛争に加え、イスラエル・パレスチナ問題が勃発するなど国際情勢が一層の不安定さを増しました。また、資源高、燃料高が続き、日本経済は、賃金の上昇は見られるものの、円安も相俟ってそれ以上に物価が上昇していることにより、内需の足取りは鈍く推移しました。

森林・林業・木材産業分野においても、燃料材需要に支えられてチップ材の価格は上昇したものの、需要の弱さから木材価格は下落を続け、工場の受け入れ制限や人員不足による生産調整なども見られました。

厳しい逆風にさらされた2023年でしたが、確かな追い風も吹いています。森林資源は年々充実しています。資源に乏しい日本ですが、北海道を中心に森林資源はふんだんにあります。

また、2050年カーボンニュートラルの実現、SDGs、グリーントランスフォーメーションなど国内外の課題に対処するため、森林・林業・木材産業の一層の貢献が求められています。

そして、各地で木造の大型・高層建築物が増加しています。

当局といたしましては、北海道の4割弱を占める約300万ヘクタールの国有林の管理経営に当たり、環境変化に柔軟に適合して課題を解決していく組織づくりを進めながら、公益的機能の一層の発揮、木材の安定供給、国有林の利活用による地域社会への貢献とアイヌ文化の継承等に注力し、今吹いている追い風を確かな成果に結びつけてまいりたいと考えています。

こうした取組を進めるためには、より多くの国民の皆様に森林・林業・木材産業の現状や魅力を知っていただき、応援団になっていただくことが必要です。このため、当局では、「北の森林 国有林」の一層の充実をはじめ、若手職員の新鮮な感性を活かした動画などの発信、子供たちに森林や木材の魅力伝える仕組みづくりなどに力を入れてまいります。また、木の魅力あふれる本局一階のウッドホールでは、森林の公益性や木材利用に関する展示、森林や林業、木材に親しんでいただくためのイベントなど皆様にとって充実したひとときをご提供してまいります。このウッドホールに設けている木の遊具コーナーには、連日小さなお子さんと保護者の方々に訪れていただいております。子供たちの笑顔と笑い声があふれています。お近くにお越しの際はぜひご訪問ください。

本年も国有林の価値を高め、次世代に継承して行くべく努力してまいりますので、引き続きのご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、北海道森林管理局の取組にご注目ください。

本年が読者の皆様にとって素晴らしい一年となりますことをお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



### 【はじめに】

林野庁では、国有林野の管理経営に当たって、その組織・技術力・資源を活用し、民有林関係者等と連携しながら、民有林への技術的な支援を積極的に行っています。

具体的には、林業の低コスト化に資する技術開発とその民有林への普及・定着、林業の効率化を目指した民有林と連携した森林施業の実施、市町村森林整備計画などの計画策定への技術的な支援など、様々な活動を実施しています。

ここでは、北海道森林管理局の民有林の支援に関する取組のうち、市町村による民有林行政に関する支援を中心に紹介します。

### 【課題（ニーズ）の把握】

道内には、179の市町村があり、都市部と山村部、海岸部と内陸部、平野部と山間部などそれぞれの市町村における森林・林業・木材産業を取り巻く状況は様々で、課題も異なります。民有林行政への貢献のためには、まず、それぞれの地域で課題となっていることを把握する必要があります。

このため、各森林管理署では、市町村の担当部局やその地域を所管する振興局の担当部局との情報交換の場を設けることなどにより、地域の課題の把握に努めています。また、市町村長と直接意見交換を行う協議会の場も設けています。

### 【各署等の支援体制】

民有林が抱える課題は、森林の現状把握、森林整備の実施、得られた木材の販売など幅広いため、複数の職員が知識・技術を持ち寄って対応できるよう、課題に応じて森林管理署職員が一丸となって取り組む「民有林支援チーム」を設置し、様々な課題解決に当たることとしています。

### 【具体的な取組事例】

石狩森林管理署（以下、石狩署）において令和3年度から実施している赤井川村への支援について紹介します。

赤井川村は人口約1,200人の村で、四方を山に囲まれたカルデラ地形の内側に広がり、総面積の88%が森林となっています。村では令和4年度が村有林森林整備計画の樹立の時期となっており、これを機に約1,800haの村有林の整備を進めたいと考えていました。このため、赤井川村が石狩署に森林整備計画の策定について相談し、これを契機に、石狩署の森林整備の担当者と赤井川村の近隣を所管する森林事務所の森林官がチームを組んで課題解決に取り組むことになりました。

チームでは、森林整備計画の策定に当たっては、まず、森林の現状把握が必要になることから、実際の森林整備の予定地の現地調査を通じて森林調査方法習得のための技術支援を行いました。また、具体的な森林整備の方法の検討に向けては、現地踏査に同行してドローンでの撮影データの提供や森林整備の方法を選定するための技術支援を行い、



施業予定地での現地検討会において、伐採方法や搬出方法、またそのための路網の整備についての検討に当たって、技術的な助言などの支援を行いました。

さらには、森林整備の方法を検討するための現地検討会における支援も行いました。

そして、これらの支援により村の担当者が森林・林業に関する知識を習得し、赤井川村有林森林整備計画を策定するに至りました。

また、この森林整備計画では、村有林の整備対象林と国有林が隣接していたため、より効率的な森林整備の実施に向けて協議を行いました。その結果、国有林と村有林が連携して事業を行う共同施業団地を設定することで、効率的な森林整備や路網整備を行うとともに、共同土場の整備により民有林材の販路拡大にも取り組む「赤井川地域森林整備推進協定」を締結することとなり、令和6年1月19日に協定の調印式が行われました。

### 【人材の育成】

次に、人材の育成に関する取組を紹介します。

一つは、北海道森林管理局が実施している研修への市町村職員等の参加です。北海道森林管理局では、市町村森林整備計画や森林経営計画の作成支援を行う森林総合監理士の育成のための研修を開講し、市町村職員等に受講の場を提供しています。また、森林・林業に関する基礎的な研修にも、市町村で新たに担当することになった方などに受講機会を提供し、業務に必要な知識を得られるようにしています。

もう一つは、北海道立北の森づくり専門学院（北森カレッジ）への支援で、森林管理局職員の講師としての派遣や、実習のフィールドとしての国有林野の提供などを行っています。

### 【市町村森林整備計画実行管理推進チーム】

北海道森林管理局と北海道が市町村に働きかけ、道内の全市町村に「市町村森林整備計画実行管理推進チーム」が設置されています。これは、市町村森林整備計画の実行のため、北海道森林管理局の各署と北海道の職員、また、森林・林業の関係団体、事業者がチームを組み、施業の集約化などによる低コスト化、現地検討会などによる技術・知識の普及、人材の育成・確保等に取り組む、市町村森林整備計画の実行管理等を支援するものです。そしてこの取組は、北海道から始まり、全国にも広まっています。

### 【おわりに】

戦後に造成した人工林が収穫期を迎えるとともに、カーボンニュートラルなど地球環境をめぐる動きから、森林や木材利用に関心が高まっています。そして、その期待に応えるためには、特に、伐採と再生林による適切な森林資源の循環の確立が重要となっており、これには、民有林と国有林がしっかりと連携することが必要です。

このような中、市町村との連携には、お互いの信頼関係が重要であると考えています。地域の信頼を得られるよう、技術の向上のみならず、日頃からの顔の見える関係づくりにも努めており、引き続き、連携した取組を進めてまいります。



### キーワード解説

- ★「**森林共同施業団地**」は、国有林に隣接する民有林の森林所有者と国有林（森林管理署）が、効率的な路網整備及び効率的な作業システムによる低コスト化を図るため、路網整備や森林整備等の集約化により一体的に行うことを目的に設定する森林のまとまり（区域）です。
- ★「**森林整備推進協定**」は、民有林と国有林が一体となって効率的な森林経営を行うため、森林共同施業団地の設定や共同の土場を利用した協調出荷の実施などを定める協定です。
- ★「**森林総合監理士**」は、森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有るとして登録された者です。長期的・広域的な視点に立って地域の森林づくりの全体像を示すとともに、市町村森林整備計画の策定等の市町村行政を技術的に支援します。
- ★「**市町村森林整備計画**」は、市町村が5年ごとに作成する計画で、地域の森林・林業の特徴を踏まえた森林整備の基本的な考え方やこれを踏まえた森林整備を推進するための森林施業の標準的な方法等を定める森林づくりの構想です。
- ★「**森林経営計画**」は、森林所有者又は森林の経営の委託を受けた者が、自らが経営を行うまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する5年を1期とする計画です。計画に基づいた効率的な森林の施業と適切な森林の保護を通じて、森林の持つ多様な機能を十分に発揮させることを目的としています。

# 地域課題の解決に向けた取組

## 「盛土地拵」による下刈の省略に向けて

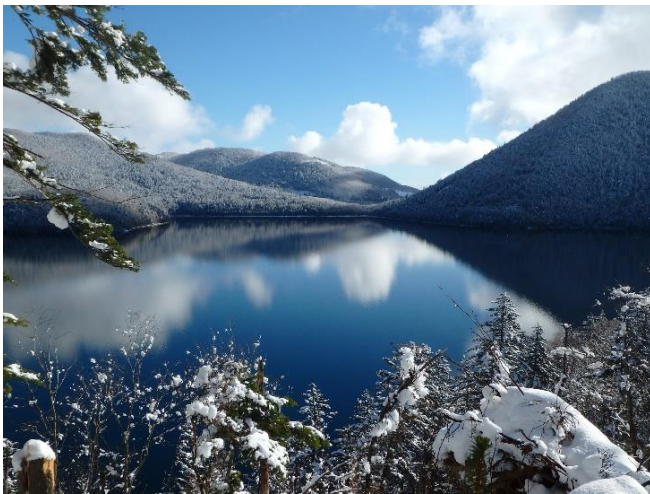
十勝西部森林管理署東大雪支署

※なお、この取組の詳細は、2月14日、15日に開催の北の国・森林づくり技術交流発表会においてポスター発表を行う予定です。

### 【はじめに】

十勝西部森林管理署東大雪支署は、十勝北部の上士幌町、新得町、鹿追町、士幌町にまたがる約15万haの国有林を管轄しています。

当支署管内は、日本百名山にも数えられるトムラウシ山や十勝岳のほか、ニペソツ山、石狩岳など北海道を代表する山々に囲まれた地域で、亜寒帯性針広混交林の広がる日本でも有数の森林地帯です。また、大雪山国立公園をはじめ、保護林、緑の回廊、レクリエーションの森など、多様な森林を広く有し、恵まれた自然の中では貴重な野生動物も多くみられます。



然別湖周辺の然別自然休養林は、全国に93箇所設定されている「日本美しい森 お薦め国有林」の一つになっています。

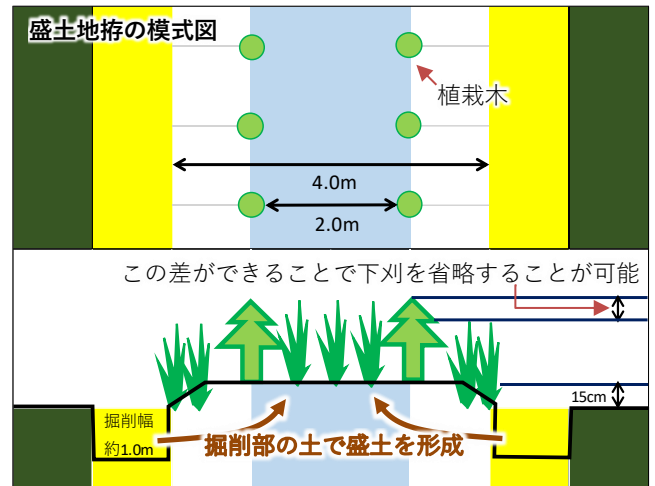
### 【労働負荷が高い造林作業】

管内では、人工林が間伐期から主伐期へ移行していることから、主伐量が増加し、これに伴って地拵・植栽・下刈の実施面積も増えると見込まれています。このような中、特に下刈は、コスト負担のみならず、炎天下での作業が多く労働負荷が強いため、その軽労化・効率化が担い手確保の観点からも急を要する課題となっています。

### 【課題解決への取組】

こうしたことから、当支署では、令和5年度から地域に適した造林作業の軽労化・効率化、下刈りの省略によるコスト削減に向け、「盛土地拵」の実証地の設定を行いました。

盛土地拵の方法は模式図のとおりです。下層植生のクマイザサ等の根茎を大型機械により除去したのち、苗を植える場所に高さ15cmの盛土を行います。盛土を行うことにより、盛土上の植栽木と発生する下層植生の高低差を確保するとともに、両脇の掘削により新たな笹の根茎の侵入や繁殖を抑制することで、下刈の省略を図ります。



盛土地拵の実施後の様子 杭の位置に苗木を植栽します。



※地拵は、植栽を行う前に、作業の支障になる下草などの整理や整地を行う作業です。

### 【今後の取組】

来年度は、設定した調査実証地においてデータの収集を行い、その結果を用いて地域の民有林への普及を進めていきたいと考えています。

# こんにちは 森林官です!

後志森林管理署 黒松内森林事務所  
地域統括森林官 濱田昌輝



## 【地域のご紹介】

黒松内森林事務所は、北海道の南西部の黒松内町内に所在しており、管轄区域は、黒松内町、寿都町、島牧村です。

黒松内町の基幹作業は農業ですが、介護施設が多く、従事する職員と家族が多いことから比較的若年者が多い町でもあります。また、北限のブナ林として、1928（昭和3）年に国の天然記念物に指定された「歌オブナ林」（国有林）もあることなどからブナが町木になっています。寿都町は漁業が基幹産業であり、特に牡蛎やしらすが有名です。多くの風車（風力発電設備）が存在し、カントリーサインも風車になっています。島牧村は「日本の滝100選」の「賀老の滝」（落差70m、幅35m）が有名です。また狩場茂津多道立自然公園に指定されている狩場山（標高1,520m）ではCATスキーツアーが実施され、良質な雪を求めて海外から多くのツアー客が訪れます。



歌オのブナ林内の巨木

## 【森林事務所の主な業務】

黒松内森林事務所が管轄する国有林の面積は、2町1村合わせて38,840haになります。ブナ林を主体とする自然体系は北海道では貴重なため、関係自治体や団体と協力してブナの森の保護活動を実施しています。一方、先人が植えたトドマツ等の人工林が伐採時期を迎えているため、間伐や主伐と再生林を進めており、多くの人手を必要としていることから、事業の実施を通じて、地域雇用の安定化にも大きく貢献しています。



## 【地域に親しまれる国有林を目指して】

私は単身赴任者ですが、プライベートでも地元交流施設を利用することで積極的に地域の方と交流することにしています。ここでの地元の木育インストラクターのグループや学校の先生との交流がきっかけとなり、森林教室等の講師をしたりもしています。これからも国民の貴重な財産「国有林」を知っていただけるよう、地域から信頼され、愛される森林事務所を目指して積極的に活動していきたいと考えています。



室蘭養護学校での森林教室



釧路湿原森林ふれあい推進センター

当センターは、国有林を主な活動区域として、森林環境教育に携わる教育関係者、ボランティア団体、地域住民、企業、行政機関などの活動支援や技術指導の業務を行っています。

今回は、気象害により木がまばらになったり無くなったりした被害跡地の森林再生を行っている川上郡標茶町<sup>らいべつ</sup>雷別の自然再生事業地において、今秋に実施した取組の中から2つご紹介します。

### 【JICA（国際協力機構）研修の受入】

この研修は、地元住民の参加を得て湿地の適切な利用を促進する行動計画を実行し、地域開発、環境、生物多様性保全に貢献することが出来るようにする目的で行われ、当センターが釧路湿原源流部で自然再生に取り組んでいることから、JICA中央アジア広域研修の1コマとして受入依頼がありました。当日は、自然再生事業地を訪れたカザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタンの湿地保護に従事する政府関係者（研修員）の方々に当事業の取組内容について説明を行いました。



JICA 研修員による自然再生事業地見学の様子

研修員からは、取組に対し、熱心に質問があり、また、「地域住民やボランティア団体などの協働の取り組みは興味深く参考になった。自分の国でもできれば実施してみたい。」など、積極的に意見や考え方などの発言がありました。

### 【環境に配慮した施業（森林再生）の推進】

当センターでは、地域の方々と協働し、前述の被害跡地に郷土樹種の広葉樹を植えることと併せて、エゾシカや野ウサギの食害から植栽木を保護するため、筒状のプラスチック製保護管（ツリーシェルター）を設置しています。この保護管は食害対策として有効ですが、自然分解しないため、環境負荷の低減を目指して、微生物によって分解され自然に帰る素材で作られた生分解性保護管の試験設置を今年度から行っています。今後、耐久性などの経過観察を行い、当事業地への導入について検討していきます。また、プラスチック製保護管については、再利用の可能性を探るなど、効率的な使用方法の検討も行っています。



雷別ドングリ倶楽部による生分解性保護管設置の様子

雷別ドングリ倶楽部は、当センターと協働で森林再生に取り組んでいるボランティアの集まりです。秋の活動には15名が参加し、広葉樹植栽と生分解性保護管設置に取り組みました。

### 【おわりに】

当センターでは、この他にも様々な業務に取り組んでいます。活動報告は、随時ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

森林ふれあい 釧路

検索

# 各地からの便り



「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索

## 名寄南小学校で出前森林教室を実施



【上川北部森林管理署】



12月6日に名寄市立名寄南小学校3年生を対象に出前森林教室を開催し、当署職員2名が講師を担当し土壌吸水実験と森林クイズを行いました。

土壌吸水実験では、森林のもつ機能について説明を行った後、森林の土と学校の畑の土が入った2つのペットボトルに水を入れ、違いを観察しました。児童は、ボトルから出てきた水の量や色の違いから、気づいたことなどを熱心にメモしていました。自然に対する興味を引き出し、自然を守ることの大切さを伝えられるよう、今後も充実した内容の教室にしていきたいと考えています。

## 上士幌小学校にてSDGs出前授業



【東大雪支署】



12月14日上士幌町立上士幌小学校5年生を対象に、SDGs目標15の「陸の豊かさを守ろう」をテーマに出前授業を実施しました。

上士幌町は、SDGsに関わる各団体による出前授業を実施しており、その一環で、当支署が協力することになったものです。授業では、支署の業務内容や森林づくりの方法、森林の循環利用の大切さなどについて、クイズや業務で使うゾンメルスキーの実物なども交えて説明しました。子どもたちがSDGsに学んだことを実践してもらえるよう、今後もお手伝いをしていきたいと考えています。

## 森の展覧会2023を開催



【留萌南部森林管理署】



今年で3回目を数える「森の展覧会」を留萌振興局（林務課・森林室）、留萌流域・林業活性化協議会、当署の共催で12月11日から25日までの期間、留萌振興局道民ホールと三省堂書店留萌ブックセンターの2箇所で開催しました。

当署が参加するのは初めてで、「北の森漫画」などを展示し、森林・林業の役割を理解していただく一役を担いました。展覧会は、森林・林業への理解を深めてもらえるよう、様々に工夫した展示がされており、森林や林業の魅力を伝えることができたと考えています。

## ウッディホールに季節のつばや木掲示板



【北海道森林管理局】



北海道森林管理局1階「ウッディホール」は、森林や木材に親んでもらえるよう、様々なコンテンツを用意して一般開放しています。

この度、新コーナー「季節のつばや木」掲示板を開設しました。ウッディホールに来場する皆さんにリピートで楽しんでいただけるよう、季節に合わせて身近にある木をご紹介します掲示板です。

有志女性職員が集まり、企画からデザイン、ロゴ作成まで手作りで頑張りました。掲示板の内容は季節に合わせて定期的に更新しますので、お越しの際はぜひ目にとめてみてください。

広報 「北の森林 国有林」1月号

発行 林野庁北海道森林管理局

編集 総務企画部 企画課

〒064-8537

札幌市中央区宮の森3条7丁目70

電話 011-622-5213

HP <https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

## 【イチイ】

道内ではオンコの名でも知られます。庭木としても親しまれ、赤い実を食べた(\*)ことがある方も多いと思います。



神社で神前に供える玉串は、本州ではサカキが、北海道ではイチイが主に用いられています。

**\*ただし種に毒があるので注意!!**

今月の表紙